

E & Eレポート

No. 74

発行日 2007年 12月2日
 発行元 E & Eプランニング
 責任者 宮本康弘
 川崎市中原区市ノ坪223-4-602
 電話/FAX 044-434-7291
 メール miyamoto@d03.itscom.net

省エネ、環境機器システム

IBMが温室効果ガス排出権市場で取り引きできる省エネ証明書発行。

顧客がIBM製品や技術の導入で実現できた消費エネルギー削減効果について証明書を発行する認証制度「Efficiency Certificates」を発表した。この認証制度は、米Neuwing Energy Venturesの協力を得て実施する。まず、Neuwing Energyが顧客のデータセンターやIT環境を検査し、サーバー運用や空冷などに必要なエネルギー量を算定する。その後、IBMのサーバーや仮想化技術を導入して削減できた消費エネルギー量を求め、証明書を発行する。この証明書は、温暖化ガス排出権を取引する市場で売却できるほか、企業の省エネルギーに対する取り組みをアピールする手段としても使える。サーバーおよびストレージ機器を対象として、米国で同制度の提供を開始し、対象製品を広げるとともに、欧州でも2008年より提供する。 「日経ネット」

(コメント:省エネ事業により生じるCO2排出量の証明書の発行と取引ができることこれから注目。)

三菱製紙が森林認証紙の利用拡大へ「FSC森林認証の森サポーター制度」を発足。

岩泉町は面積の93%を森林が占め、5300ヘクタールの町有林で森林認証を取得している。三菱製紙も岩泉町の社有林で同認証を取得しており、それらの認証林の管理によって発生する間伐材を森林認証紙の生産に活用する。森林の管理費用を提供する三菱UFJ投信は、環境活動の一環として森林認証紙を目論見書の作成などに利用する。今後、紙のユーザー企業20-30社にサポーター制度への参加を促し、森林保護と森林認証紙の利用拡大を目指す。

(コメント:京都議定書の森林による吸収が3.8%もある。もっと森林に関する活動が必要では?) 「日刊工業新聞」

大手電機メーカーがCO2の「排出総量」削減目標を策定。

松下電器が'09年度のCO2排出総量を'00年度並にする目標を設定。三菱電機は製品生産時と使用時の排出総量を2021年までにそれぞれ基準年比で30%削減する計画を策定した。松下電器は、業績が好調で売上が伸び続けた場合、原単位ではCO2の排出総量が増えたかどうか判別しがたいため、より定量的に判断できる指標を採用した。東芝もグループとして初めて長期的なCO2排出削減目標を採用した。CO2排出総量の削減目標は日立製作所が2003年度に国内電機メーカーの口火を切って採用した。 「電気新聞」

(コメント:業界による原単位管理は靴の裏から足を書いているようなもの。)

ダイキンがビル用除湿・加湿機能付換気装置「デシカ」を発売。

熱交換器と水分吸着剤を一体化した「ハイブリッドデシカ素子」が、冷房時は外気を除湿し室内に供給する。除湿した水分は室内の空気を排気する際に捨てる。暖房時は排気中の水分を吸着剤で取り、室外からの空気に加えて加湿する。購入費用は1~3割高くなるが、電気代は約15%削減できる。吸着剤から水分を脱着する際に、通常は80度の熱が必要だが、吸着剤を改良して40にすることに成功した。さらに、水分の吸着時に発生する熱を着脱に応用する熱サイクルも考案し、効率を上げた。除湿時の水分を捨てないため、配管が不要になり、加湿時も給水管を使わずに済む。そのため、配管の手入れをする手間もなくなり、全体で電気代も含め約35%減らせる。 「日経産業新聞」

(コメント:高性能吸着剤の開発と再利用の熱サイクルはよく考えられている。)

百貨店協会が環境対応への取り組みを強化

今夏試験的に平日5日間店内温度を通常より2ほど緩和した。実施後のアンケートでは否定的な意見は21%だったため来夏は緩和期間を倍程度に拡大する方針。また、CO2発生を相殺する「カーボンオフセット」や値札に商品の製造や輸送過程で発生するCO2量を表示する「カーボンフットプリント」、食品の輸送距離を指標にした「フードマイレージ」など、消費者の環境意識を喚起する取り組みも検討する。百貨店の使用エネルギーの80%を占める電力の内、照明が39.9%を消費しているため照明・照度のあり方なども研究を進める。 「日刊工業新聞」

(コメント:業界としてではなく、企業が自主的にもっともっと活動が必要な時期に来ている。)

三井物産と中央三井信託銀行が排出権信託受益権の販売を開始。

販売予定数は、受益権約12万個で、約12万トンの二酸化炭素排出量に相当。販売価格などは、国際取引ログ接続後に決定する。今回の排出権信託受益権の販売では、専門的な知識やコスト、時間といった手間を省き排出権を取得することが可能で、排出権に対する小口需要に応えることができる。また、信託財産となる排出権は、既に国連から発行済みのCER(排出削減保証)であり、プロジェクトリスクや手続リスクなどの不確実性がないのが特徴。

(コメント:排出権のみが財産として扱われだすと自らCO2削減努力がされなくなる恐れがある。) 「日経エコロジー」

省エネ、環境政策動向

IPCCの総会で第4次報告書採択。今後20～30年がカギ。

今年前半に開いた3つの作業部会の評価報告を統合。6年ぶりの研究成果。報告は、急速な対策がなければ、地球の平均気温が今世紀末に6.4℃上昇するなど事態が深刻化すると警告。気温の上昇を2～3℃に抑えなければ世界的に損害が拡大する。影響の抑制には2050年までに温室効果ガスの排出を半減させる必要がある。最終的には世界のGDPの5.5%の投資コストが必要。しかし、排出量を2000年レベルまでなら、投資コストは4%程度で済むが、その場合の温度上昇は3℃を超え、被害が飛躍的に増える恐れがあると分析。国連事務総長は記者会見で「国際社会の協力による持続的な行動で破滅的なシナリオは回避できる」と強調した。 「日本経済新聞」
(コメント:20～30年といえば本当に待たない。しかしまだまだ危機感が感じられない。)

環境省がカーボンオフセットの第三者機関による認定義務付け。

二酸化炭素の排出分を植林や環境団体への寄付によって相殺する「カーボンオフセット」について、民間企業がオフセットをうたった商品を発売する際には、第三者機関の認定が必要だとする指針案をまとめた。カーボンオフセットは消費者が旅行やはがきに料金を上乗せして支払い、風力発電などに投資する仕組み。国内でも年賀はがきや旅行パックの一部が採用した。同省は京都議定書の目標達成に向け、普及を促すためのルールを検討していた。
(コメント:確かにカーボンオフセットという言葉が裏付けなく独り歩きする危険はある。 「日経ネット」)

環境省が2006年度CO2排出量速報値発表。暖冬の影響で前年比1.3%減。

国内総排出量(速報値)はCO2換算で13億4100万トン。1990年度の水準を6.4%上回っている。90年度比6%減という目標を達成するには12.4%分の削減が必要で、なお道のは厳しい。06年度排出量の部門別では、景気拡大により製造業の排出量が0.6%の微増、運輸部門が0.9%減った。ガソリン価格が上がり、消費者が自家用車の利用を控えたのが主因。オフィスなど業務部門は2.6%、家庭部門は4.4%それぞれ減少した。暖冬の影響で電力や灯油の消費が減ったことが寄与した。ただ、90年度比でみると、運輸が17%、業務が41.7%、家庭が30.4%それぞれ増えており依然高い水準が続いている。 「日本経済新聞」
(コメント:天候の補正をして実質削減効果も知りたい。)

展示会、講演会

1. エコプロダクツ2007 <http://eco-pro.com/>

国内最大級の環境総合展。環境適合製品やサービス、企業の環境活動などの紹介を通してエコライフを推進する。

開催期間 : 2007年12月13日(木)～15(土)

場所 : 東京ビッグサイト URL

入場料 : 無料開催

主催者 : (社)産業環境管理協会/日本経済新聞社

問合せ先 : エコプロダクツ2007主催者事務局

Tel : 03-5255-2847

2. IGES地球環境セミナー2007 第3回

地球温暖化対策の行方 ～ COP13結果速報と今後の展望 ～

開催期間 : 2007年12月21日(金) 13:30～17:00

場所 : 富国生命ビル28階大会議室(千代田区内幸町2-2-2) <http://www.fbsyoutenkai.jp/>

参加費 : 500円(IGES賛助会員は無料)

主催者 : 財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)

問合せ先 : 財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)

Tel: 046-855-3720 Fax: 046-855-3709 sanjosem@iges.or.jp

後記 COP3開催10周年記念「京都環境フェスティバル2007」で

「ソフト省エネで地球温暖化防止」の講演をします。

所属しているNPO法人「環境保全ネットワーク京都」として、地球温暖化の警告と

「誰でも」、「どこでも」、「いつでも」できるお金をかけない「ソフト省エネ」について紹介します。

・講演日時 12/8(土) 14:00から15:00

・ところ 京都府総合見本市会館[パルプラザ] 「ワークショップコーナー」
(竹田駅からシャトルバスあり)

・NPO法人「環境保全ネットワーク京都」出展内容 「中国での植樹活動」、

「京都環境フェスティバル2007」 <http://www.pre.kyoto.jp/kankyofes/>

12/8,9と開催されます。 入場無料

12/9(日)にはホールで「不都合な真実」が2回上映されます。 10:30～、14:00～